

収穫したケナフの性質

収穫されたケナフの幹の断面を見ると堅そうな繊維壁[靱皮繊維]と柔らかそうな芯部[ヘミセルローズが多い]が見える。サトウキビや葦類は成長は早いですが、繊維の収穫量がケナフに比べて少ないのは芯部の有無や構成成分の違いに原因している。

もう一つの特徴は、繊維製品に対しては靱皮部を、平滑性が必要な洋紙には両者の混合物が用いられるなど、用途に合わせて様々な利用ができることである。

用途の乏しかった芯部(全体の約65%)は最近バイオエタノールの原料としても注目されている。

繊維製品の原料である靱皮繊維は、写真4のように35%~の空孔を持っており、軽く強いため自動車の内装や結露の少ない建材、汗を吸収し易い性質を利用してクールビズ用の衣料が作られている。



写真2 国道分離帯に植生したケナフ〔横浜市〕



写真3 ケナフ幹の断面



写真4 ケナフの靱皮繊維の電子顕微鏡写真